北大経済学部同窓会報

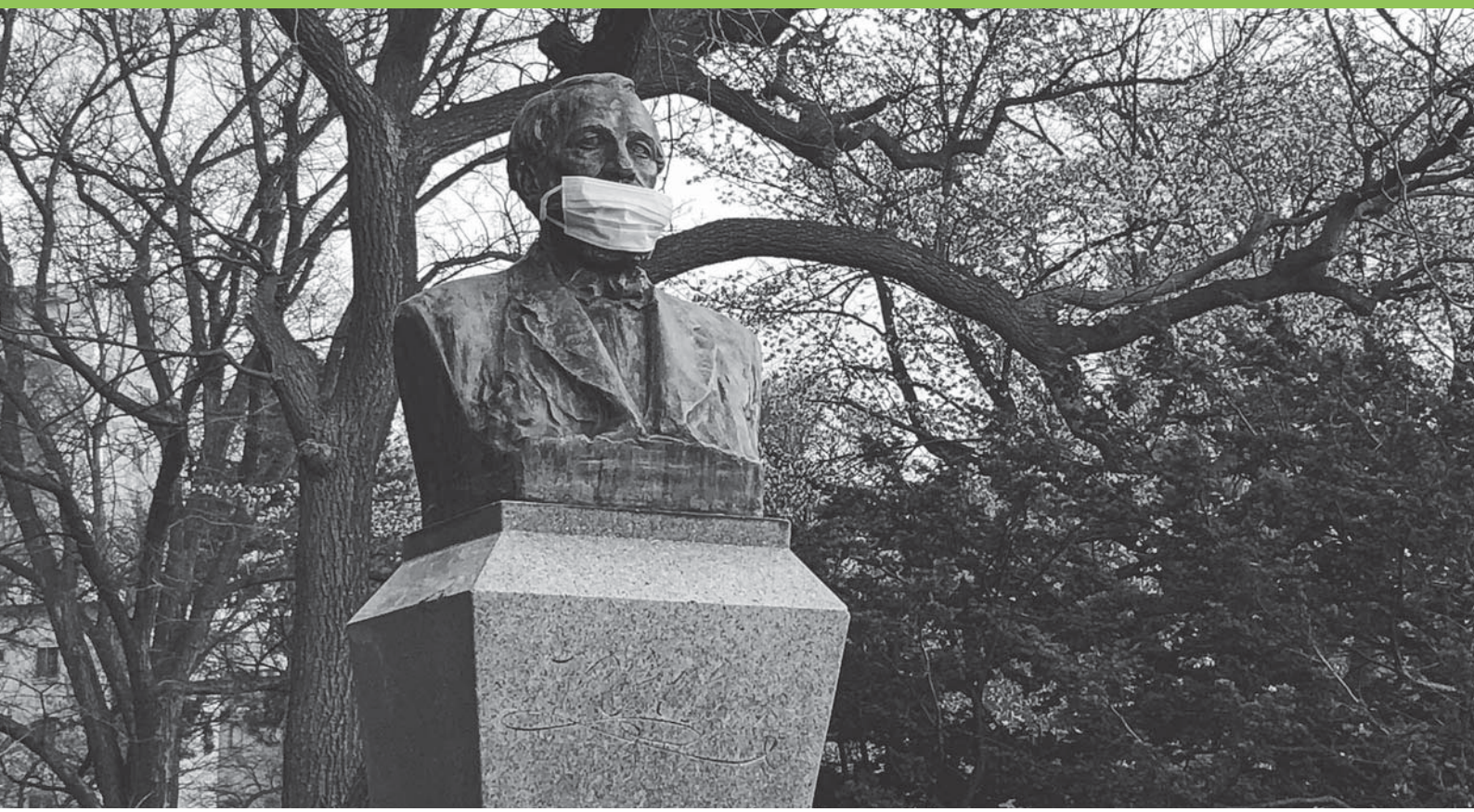
Hokkaido University
Faculty of Economics

第36号

発行者
北海道大学経済学部同窓会
発行日 2020年9月1日

電話＆FAX　(011)706－4113
email　dosokai@econ.hokudai.ac.jp

経済学部同窓会員数　12,805名



ごあいさつ

北大経済学部
同窓会会長
上 野 昌 美
（昭和47年卒）

いつもであれば、同窓会会員の皆様におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます、と始めるところですが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、冒頭から言葉を失ってしまいます。会員の皆様のなかには、社会に出て活躍されている方々もいれば、すでにリタイアして悠々自適の方々、そして昨年からは学部の在校生の皆さんもいらっしゃいます。それぞれの立場、地域、健康状態に応じて感染症の影響は様々でしょうし、とても私の想像を超えています。とりあえずは、会員の皆様が不測の事態に陥っていないことを祈るばかりです。

同窓会はここ数年、経済学部との連携強化、会員資格の在校生への拡大、在校生支援の協賛金の募集などに目標を定めて活動してまいりました。しかし、皆様から協賛をしていただいた在校生支援活動については、就職支援の次のステップについて議論を始めたばかりのところで、足踏みをしている状態です。今回の会報についても、刻々と変化する状況下で幾つかのオプションを検討した結果、例年通りの時期に発行することにいたしました。

新型コロナウイルス感染症拡大のもとで、大学の講義はオンライン化し、やや拙速に入試時期の改革が俎上に上りました。将来的には就職活動にも影響が及んでゆくという見方もあります。私のような1970年代の卒業生にとっては、気の遠くなるような変化です。こういう変化に際して、同窓会には何ができるのだろうかと自問せざるを得ません。抽象的には、同窓会のビジョンを描き、仲間を集め、衆知を絞る、ということになるのでしょう。まず、同窓会がどうしても守っていかなければならない核心部分を再確認するところから始めようと考えています。

巻頭言

経済学研究院長
（学院長・学部長）
平　本　健　太
（昭和62年卒）

しばらく経ってから振り返ると、2020年は21世紀前半の大きなターニングポイントだったと評価されるかもしれません。それくらい世の中が様変わりしそうな予感です。本原稿を執筆している７月上旬の時点で、経済学部・経済学院の授業は、講義もゼミもすべてオンラインで行われています。

オンライン授業というと、Zoomなどのリモート会議システムを利用して、学生も先生もお互いにディスプレイ越しに顔を見ながら「双方向リアルタイム形式」で授業を行う様子を真っ先に思い浮かべるかもしれません。しかし実際には、パワーポイントのスライドに解説の動画や音声などを記録した教材を学内の教育情報システム上にアップロードし、学生はそれをダウンロードして学習するという「オンディマンド形式」の授業も数多く行われています。学内ネットワークやインターネットへの負荷を少しでも下げるべく、双方向リアルタイム形式とオンディマンド形式を授業内容によって使い分けているのです。

オンライン講義の利点と問題点、教育効果あるいは、学生にとっての満足度等については今後の十分な検証が不可欠です。しかし、地理的・時間的な制約を解放する新たな教育方法の可能性については、日々いろいろと考えさせられます。同様のことは、＜コロナ以前＞には常識として疑いもしなかった対面の会議、出張、懇親会（＝飲み会）、委員会などをはじめとする広範囲に及びます。従来の常識を根本から見直し、新しい可能性や方向性を見つめる契機という点で、今般の事態を多少とも肯定的に捉えても良いのかもしれません。

こうした状況において、同窓会のみなさまにはおかれましては、これまでとまったく違わぬご厚情をいただいておりますことを、心より御礼申し上げます。たとえば、同窓会の全面ご協力によって昨年度から始まった現役学生に対する就職活動支援の取り組みは、今年度も引き続き、一層パワーアップした形でご継続いただけると伺っております。ここ数年の新卒就職における売り手市場の状況も、COVID-19の影響によって来年度はきっと大きく変化するでしょう。インターンシップをつうじての＜青田買い＞や、より厳密な選別による優秀な学生の優先的採用など、就活事情が過酷になることが予想されます。同窓会のご協力によって、学生たちの大きな関心事である就職活動の有効な対策が着実に講じられておりますこと、ありがたく存じております。

ところで本年４月より、学院経済学研究院長・経済学院長・経済学部長として２期目の任期をつとめております。来年度末までの任期中、これまで以上に同窓会との関係を深め、会員であられる現役学生の皆さんならびに卒業生のみなさまにご納得いただけるような部局運営を行えればと願っております。同窓会の皆さまにおかれましては、なお一層のご協力とご支援をいただければ幸いでございます。

卒業生の皆様へ

「北大みらい投資プログラム」へのご協力のお願い

皆様からのご寄附は、苦学生の修学、海外留学、特定の研究、部活・サークル活動など、皆様がご指定される使途に使用いたします。
後輩学生へのサポートとして、卒業生の皆様からのあたたかいご支援をいただきたく、心よりお願い申し上げます。

4つのプログラムメニュー　4つのメニューから、サポートしたい取り組みを指定してご寄附いただけます。

給付型奨学金
○進学サポート奨学金
○修学継続サポート奨学金

海外留学・インターンシップ等資金
○海外協定校等派遣・海外語学研修への支援
○短期留学・研修・国際インターンシップへの支援　等

課外活動等支援資金
○運動部・文化系サークル支援（個別指定可能）
○サークル会館、体育館、グランド整備への支援　等

使途指定資金
○特定の学部等への支援
○特定の研究分野への支援　等

寄附方法

PCから　スマホから

北大フロンティア基金HPにアクセスして下さい。
https://www.hokudai.ac.jp/fund/mirai.html

北大みらい投資　検索

webフォームに必要事項をご入力いただき、ご寄附またはお問い合わせが可能です。

「クレジットカード決済」
「郵便振替・銀行振込」
「銀行口座振替」
「コンビニ決済」がお選びいただけます。

お問い合わせ先
北大フロンティア基金事務室
〒060-0808
札幌市北区北８条西５丁目
北海道大学事務局内
TEL 011-706-2017
FAX 011-706-2092
E-mail kikin@jimu.hokudai.ac.jp
URL https://www.hokudai.ac.jp/

継続寄附のご案内　クレジットカード決済、または口座振替により、継続寄附（毎月・年2回・年1回のいずれかの自動引き落とし）をご利用いただけます。お申込み後の内容変更や解約もインターネットで随時行えます。

受賞の喜びと感謝の思い

土　居　海　斗
（令和２年卒）

移行国におけるソーシャルキャピタルと主観的幸福度の関係性
～ウズベキスタンのマハッラの事例をもとに～

この度は、北大経済学部特選論文経済学部長・同窓会長賞最優秀賞をいただきまして、誠にありがとうございます。このような名誉ある賞をいただけたことを誇りに感じるとともに、大学生活における最大の喜びでもあります。卒業論文完成までの長い道のりの出発点は、北大経済学部への入学時だと私は考えています。大学生活４年間で多くのことを学び、考え、行動してきたことの全てが、私の卒業論文の根底を築いています。北大経済学部で過ごした４年間の日々は何よりも、卒業論文完成への心強い励ましでした。これまで私と出会ってくれた全ての方々、経験した数々の出来事、そして樋渡ゼミとの出会いに、この場をお借りして心からの感謝を申し上げます。

卒業論文を執筆するにあたり、ウズベキスタンとの出会いは何よりも欠かせないものでした。私の卒業論文の中核には、ウズベキスタンでの現地調査があるからです。ウズベキスタンとの出会いはゼミ活動によるもので、私が樋渡ゼミに所属しなければこの卒業論文は生まれていないことと思います。樋渡ゼミでは、大学３年の夏に２週間ほどウズベキスタンを訪問する研修があります。特に、ウズベキスタン東部に位置するアンディジャン州の農村を訪問し、現地の人々の暮らしをこの身で感じたことは、帰国後も忘れられないものでした。ゆったりとした時の流れや子どもたちの笑顔、伝統行事の華やかさなど、この時体験したことや生まれた感情などが、卒業論文の方向性を決定する一つの要因にもなっています。

私は卒業論文のテーマとして、ソーシャルキャピタルと主観的幸福度の関係性を掲げています。幸福度を高める要因は様々ありますが、その中の一つにソーシャルキャピタルが挙げられます。ソーシャルキャピタルは、社会とのつながりや人間関係、他者との信頼感などを表しています。豊富なソーシャルキャピタルを持つ人々の幸福度や生活満足度は高いという研究結果が数多くあるのです。そこで私は、ソーシャルキャピタルが幸福度を高める際の条件について、検証することにしました。

ウズベキスタンには「マハッラ」という地縁共同体があります。マハッラとは居住地区に基づくコミュニティで、社会的関係や協力関係を基盤にした人的ネットワークが存在します。すなわちそこでは、人々のつながりや信頼感が既に確立されており、豊富なソーシャルキャピタルが存在しているといえます。また、ウズベキスタンの人々の幸福度は比較的高いと考えられています。そこで私は、ウズベキスタンのマハッラで実際に聞き取り調査を行うことで、実例を集め、実態を調査することにしました。調査方法はインタビュー調査とアンケート調査によるもので、約１週間にわたり特定のマハッラ内の８世帯で聞き取り調査を行いました。ウズベキスタンの伝統文化に関する話や最近の生活様式など、様々な話を聞くことができました。

分析の結果、親の観点からみた子や孫の生活満足度に問題はないという条件が少なくとも存在することが分かりました。ソーシャルキャピタルがいくら豊かであっても、この条件を満たしていなければ幸福度は高い値とはなりませんでした。すなわち、親の観点からみた子や孫の生活満足度が高いことで、ソーシャルキャピタルは幸福度を高める効果を持つということが示唆されたのです。親と子や孫の考えが一致するとは限らず、親にとって望ましい状況である時に親は子や孫の生活満足度を高く評価していたため、あくまでも親の観点による生活満足度だと考えられます。

この条件がもたらされる背景として２つ考えられます。１つ目は、利他主義モデルの作用です。経済学における利他主義モデルにおいて、親と子の間に強固なソーシャルキャピタルが存在することで、子どもの効用の低減は、より大きな親の効用の低減をもたらすということです。２つ目は、子や孫の誕生・成長に伴う、親としてのオブリゲーションの増加です。盛大な結婚式や人生儀礼が重視されるウズベキスタンのマハッラにおいて、子どもを持つ親はそれだけ多大な負担を担うことにつながります。ソーシャルキャピタルが豊かであるがゆえに増大したオブリゲーションは、それらを十分に果たせなくなることで親の幸福度を下げる要因にもなるのです。以上から、親が自身の幸福度を決定する際に、子や孫の生活満足度が重要な指標になるのです。そしてその満足度に問題がない時、豊かなソーシャルキャピタルは幸福度を高める効果を持つということが明らかになりました。

ウズベキスタンでの調査を通して、現地の人々と触れ合い、現地の生活に溶け込みながら、多様な価値観・人生観に出会えたことは、私の人生における最大の学びとなりました。これからは、北大経済学部で過ごした素敵な日々を思い出しながら、時を異にして出会うことが叶わなかった先達の皆様の輝かしい背中を追いかけながら、社会への一歩を踏み出し、精一杯歩んで参りたいと思います。

名物ゼミとゼミ生たちのその後「眞野ゼミ」

全体編集世話人　宮 下 隆 幸（昭和53年卒）

老年難老、楽易成
眞野ゼミ生、老いを忘れ、師を慕い、盃をかわす。

日本中が東京オリンピックで沸き上がった昭和39年。一人の若き経営学の先生が神戸大学より北大に移ってこられ、ゼミを開講され一期生７名が勇んで門をたたいた。眞野ゼミナールの始まりである。以降、平成７年３月に最後のゼミ生を送り出し、退官されるまでに教えを請うたゼミ生は272名にのぼる。

新進気鋭の経営学者としての先生の教えは、バーナードの経営人モデルの解析などの、最新の労務管理論をはじめ、臨済禅や、人生論、恋愛論など若き北大生が人となりしそのときに渇望するすべてが詰まっていた。そしてその教え方は、教室での講義という枠を外れ、植物園の芝生の上の車座や、暗鬼紅灯の巷に彷徨い出ての、実践人生論にまで亘る。

多くのゼミ生は、先生はなんてお酒の好きな方だろうと思ったものだ。しかし、実際はあまりアルコールは強いほうではなく、学生と交わる楽しみのために、多少無理をされていたというのは、ご逝去後伺った話でもあった。

そんな先生のゼミ故、卒業生のバリエーションは大変豊富であり、経済界で活躍するビジネスマンはもちろんのこと、会計士、税理士や、国会議員、医師までいる。先生が経営学という範疇にとどめず、本人の意思やキャラクターに合わせ、自由に進路を選択させてくれたおかげでもあると思う。

眞野先生

ただ、ゼミ生に共通する思いは、先生の意思を受け世に役立つ人となることと、先生への畏敬の念にほかならない。

だから、先生がご逝去されて20有余年たった今も、年に一度は集まり、先生やお互いの思い出を語り合う場を持ち続けているといえる。その場の話は去年も聞いたなというのも多いのだけれど、また来年も聞かせてくれや、という気持ちにさせられるのだ。ゼミの中で一番元気な一期生が皆先生に会いに行くまでは眞野ゼミの結束は固し、である。

■OBデータの整備

経済学部図書館に保管されていた卒業論文（ゼミ論）が保管期限切れということで、廃棄するという連絡が入ったのが６年前。それではあまりにももったいないということで、眞野ゼミ卒業論文集という形で、一枚のDVDに230本の論文をまとめ収録したものを作成しました。（卒業生272名に対し、230本では数が合わないようですが、保管中に紛失されたものや、大人の事情で現在制作中の方（笑）の文が抜けてます。）

その際、なるべく多くの方に出来上がったものをお渡ししたいということで、いろいろな名簿や口コミを通して住所録の整理を行い、約100名の所在を確認し、更新しました。これが現在の同窓会案内のベースになっています。

卒業論文集DVD

■毎年恒例同窓会

先生23回忌

毎年５月くらいに今年も同窓会やりますのメールが発信される。

７月の第２週の土曜日というのがここのところの定番である。道内はもとより、大阪などの内地からを含め大体15～20名くらいが出席する。卒業生272名だから、それが多いか少ないかは判断しづらい。ただ、先生がご逝去されて23年も続いていることは、少し驚いてほしい。通常先生が逝去されると徐々に同窓会も衰退していくらしいのだが、当ゼミについては、先生への思いは決して枯れていくことはなく、ますます熟成されていくのだ。ここのところメンバーがだいぶ固定化されているけれども、これから新しいメンバーも入れていきたいものである。加えて、同時代を過ごした他のゼミの方たちとの合同同窓会も企画したいと思っている。興味のある方はご連絡を。

※今年は新型コロナウイルスの問題もあり、７月の会は取りやめました。事態が収まれば年明け、あるいは雪まつりくらいに開催したいと思っています。
連絡先：眞野ゼミ同窓会事務局
宮下　090－3523－6990

同窓会に集う

経済学部の同窓会報にて、歴史の中で輝きを放つゼミを改めて紹介したいと思います。

眞野ゼミOBの活躍

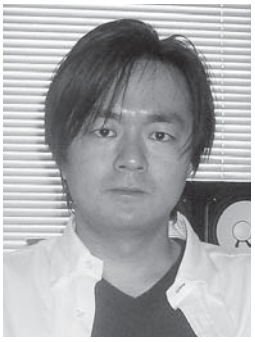
僕たちが立ち上げた、よさこいソーラン

1992年札幌の街を舞台にYOSAKOIソーラン祭りが産声を上げました。

当ゼミの同期の長谷川岳（現参議院議員総務副大臣）が中心となり、私もその創設メンバーの一人としてゼロから作り上げた、新緑萌える初夏の札幌を彩るイベントです。

始まりは長谷川が高知に行った時に本場高知のよさこい祭りをみて感動し、第二の故郷である北海道に学生の手によるエネルギー溢れるイベントを立ち上げたいと思ったのがキッカケですが、立ち上げ時には当初のメンバーにしかわからない苦労が相当量ありました。

何事もそうですが世の中は前例のないものを認めない傾向にあります。



大 島 隆 二（平成６年卒：音楽プロデューサー）

メイン会場であり大規模なステージを作る大通公園の使用許可や、パレードを行うその周辺道路の通行止を行うための警察等の許可を取るために苦労を要しました。

社会的実績の全くない学生が話す事なので話半分で聞かれて当然かもしれません。

また、イベントには多大な費用がかかります。当時一部補助も受けましたが、大半は企業協賛で賄っていました。スーツなど着ていない学生が飛び込みで営業に行くのです。ほぼ門前払いなのは目に見えていました。

花開いた夢

そんな状況の中、汗水垂らした苦労を重ね御百度参りを繰り返した末、沢山の方々のご協力を得て、初年度は参加者1000人、観客動員数20万人のイベントとして無事に成功を収める事が出来ました。

昨年は第28回を迎え、参加者28000人、観客動員数211万人とさっぽろ雪まつりに並ぶイベントにまで成長しています。現在は法人化した組織が運営していますが基本学生が中心となりお祭りを作るスタイルは今でも変わっていません。

この先も時代に合わせてやり方を変えながら、近い将来札幌の文化と呼べる祭りに育ってくれる事を望んでいます。

北大生が中心となり始まった祭りです。皆様には暖かい目で見守って応援して頂ければと切に願う次第です。

経営学のゼミから医者を目指した訳

佐 藤 範 宏（昭和50年卒：20条小児科内科クリニック院長）

私のふる里は、日高の静内町（現新ひだか町）です。高校まで田舎で伸び伸びと育ったつもりです。

楽しい予備校の寮生活の末、北大文類に入学。札幌での大学生活はかなりの刺激だった。授業はしょっちゅう休講になった。マルクス、レーニンだの、ジャズだの、剣菱は二日酔いしないだの。

学部移行は、九州周遊中にて友人に経済学部に申請を頼みました。競争率の高い眞野ゼミにはクジ引きに当たりました。が、さっぱり勉強に向かえず、何か違うぞ。の日々でした。

小学校３年の時、ネフローゼ症候群になり、通院自宅療養をしていても治らず、苫小牧市の個人病院に連れていかれ、即入院となり、置いていかれた私は、医院長夫妻の広いダブルベッドに泊めてもらいました。優しさを感じました。その後、約１年間慢性病棟で入院。胃がんのおじさんと同室だったり。治ったとのことで退院だったが、半年後、再発。また入院半年。

小学校の六年間の四分の一を病院で過ごした。

あっ、これだ!! 運良く札幌医大に合格し、眞野先生の御高配により、みんなと日付の異なる卒業証書を頂きました。

医者生活40年。今は、帯広市で、小さな診療所を。

眞野先生と税理とJAZZ

我々の世代は、第一次と第二次の安保闘争の狭間で大学生活を送った。この時代を特徴付けるものは、モダン・ジャズと実存主義である。サルトル片手にジャズ喫茶へ、と言うスタイルである。そんな時代の中、眞野先生は、若冠30歳代と言う若さで北大に赴任された。そして、すぐにゼミを持たれ、我々7名が先生の門を叩いた。

中川原 慶 憲（昭和41年卒：一期生税理士 & DJ）

先生は臨済禅をなされていて、我々には、自分の道をしっかりと見つける時間にしなさいと諭されていた。僕はサルトルを卒論に選ぼうとしたが、フランス語はまったく駄目で、原文を読まないでの挑戦は無理と早々にギブアップである。情けなや。

まあ、先生とは、お亡くなりになる迄の間、お付き合いをさせて頂き沢山の事件やら、笑い話やらを共有させて頂いた。縁あってFMでDJの真似事をする勇気も先生の後押しでいただいた。まもなく僕も先生の処へ行く時間が迫ってきた。「先生、また新しい事件を楽しみましょう」。真に尊敬できる先生であった。

我がゼミこそはという応募をお待ちしています。**（同窓会事務局、連絡は表紙右上ご参照）**

― 同窓生の近況 ―

北大、日銀そして岡崎

上　野　正　彦　（昭和52年卒）

教養学部から経済学部に進むとき、金融論の酒井一夫先生の研究室を訪ねました。教養学部の友人から「酒井ゼミは第二外国語がフランス語なら優先して入れてもらえるぞ」という噂を聞いたためです。真偽の程はどうだったのか今でもよく分かりません。

酒井ゼミナールは、助手や講師の先生、先輩、同級生が一緒になってテキストの講読を頻繁に行うなど大変活発なゼミでした。ここで学び、考え、議論した経験が今でも自分のバックボーンになっていると強く感じます。

北海道大学を卒業して日本銀行に入行したのも酒井先生に勧められたからでした。

日銀に入行してからは、あっと言う間に月日が経ちました。高度成長期から安定成長期への移行、「ライジングサン」と呼ばれた日本経済の絶頂期、バブル崩壊後の金融危機。大変な時代でした。

明治15年開業の古い組織である日銀は、高橋是清や井上準之助をはじめ数々の人材を輩出しています。私が直接お会いしたなかで最も尊敬するのは前川春雄元総裁です。国際金融マンの草分けのような存在で、戦後の日本が国際金融界に復帰するために尽力しました。総裁になってからは、第二次石油ショック後のインフレを収め日本経済を再び成長軌道に乗せるために、時の大平正芳総理大臣や大蔵省との調整に腐心しました。特別の雰囲気と魅力を備えた方でした。

入行して約30年経ったころ、思いもかけず札幌支店長の発令を受けました。北１条西６丁目にある地味な建物のことは子供の頃から知っていました。しかしながら、道内各地に銀行券を輸送する都合もあって、平面図でみると大通り沿いのワンブロックの半ばを占めるほど大きな建物であったことは、支店長になって初めて認識しました。道内各地を回る機会を得、改めて北海道は広いと実感しました。

札幌支店長は「旧小樽支店金融資料館」の館長も兼務します。月に何回も小樽へ通いました。小樽支店は明治39年「北のウォール街」に開設されました。設計者は、東京駅や日本銀行本店を造った辰野金吾博士です。

実は、私の母方の祖父は奥尻島で商店を営んでいました。米、酒、食料品、衣料品、雑貨。郵便局も兼ねていました。ニシン漁全盛の時代です。漁で捕れたニシンは島の問屋さんが引取ります。問屋が振出した漁業手形を祖父は買い取り、金融機関経由で日銀小樽支店に持ち込んだと聞きました。手形の再割引制度を利用して奥尻島の金融をつけたのです。金利は公定歩合。戦前から終戦後にかけて、北海道の漁業や石炭産業を振興するために制度金融が利用された時代の話です。旧小樽支店の館長になったのも何かの縁だと感じました。

日銀を退職した後、これも縁あって、現在、私は愛知県岡崎で働いています。お陰様で充実した毎日です。

岡崎は徳川家康公生誕の地。江戸時代を通じて、岡崎藩は五万石の小藩ながら幕府から厚遇を受けました。幕末、そうした岡崎藩校の儒学者の家に生まれたのが、著名な地理学者・旅行家の志賀重昂(しが・しげたか）です。

明治13年、志賀は札幌農学校に入学します。５期生でした。３年先輩には、わが国プロテスタントの草分け「札幌バンド」の内村鑑三、新渡戸稲造、宮部金吾らがいました。在学中は北海道の山野を歩き回り、卒業後は、明治期のベストセラー「日本風景論」を著し、地理学者・旅行家そして衆議院議員として大成します。

日露戦争終結後の明治39年。日銀小樽支店が開業した年、近くの日本郵船小樽支店の２階大会議室において樺太国境策定会議が開催され、志賀重昂も出席しました。翌年には樺太へ渡り、日露の国境を確定しています。志賀の著作によれば、自らの出身地岡崎が石の産地であったことから、その岡崎の花崗岩を樺太国境の標石に用いたとのことです。わが国初めての陸上国境の策定は一大事業でした。

酒井先生が亡くなってから随分経ちますが、ゼミの先輩や仲間とは、今でも年に一度札幌に帰った時、ススキノで楽しく会食する機会があります。北海道大学を卒業してから40年以上が過ぎました。岡崎にいても、折に触れ母校との繋がりを感じます。それだけ自分にとって北大で学んだことは大きかったのです。

「フィンランドの楽器を弾いています」

荒　　博　子（旧姓・鈴木）（昭和61年卒）

皆様、こんにちは。荒博子と申します。学生時代の旧姓では、鈴木博子です。

私は現在、平仮名の「あらひろこ」の名前でフィンランドの伝統楽器「カンテレ」の演奏を生業としています。カンテレは、木の胴に張った弦を指でつま弾いて奏でる撥弦楽器で、静かな、美しく澄んだ残響の長い音色が特徴的です。演奏を聴いた子供たちが「雪が降ってくる音」「星が光る音」と感想を言ってくれました。

古くから伝わる伝統的なものは、弦が５本、５音の小さなもので、アイヌの伝統楽器トンコリにも似ています。弦の数、即ち音の数は次第に大きいものも作られ、現在では、５弦、11弦15弦などの小型のものから、38弦39弦などの大型のものまでが幅広く使われています。カンテレは、口承で語られたフィンランドの国民的な民族叙事詩「カレワラ」にも登場しており、フィンランドの人にとっては、フィンランド文化を象徴する大切な存在でもあります。

いったい何がきっかけでそんな誰も知らないような楽器を始めたのかと尋ねられることが多いのですが、20代半ばだった1990年から「北海道フィンランド協会」という団体の事務のお手伝いをしたことがきっかけです。カンテレという楽器を初めて知り、仕事の傍ら、細々と５弦カンテレを弾き、ほんの数名で同好会を続けるうち、94年にフィンランドでカンテレを習う機会をいただいて大きなカンテレも弾き始め、１ヶ月という短い期間ながらカンテレとフィンランド音楽漬けの日々を過ごしました。このときに触れた伝統曲の魅力とカンテレの奥深さ、楽譜よりも耳を頼りに曲を覚え即興性を大切にするフォークミュージックのスタイルが自分にはとてもしっくり来たこと、そしてフィンランドの美しい自然や町並みとゆったりした空気、人々がじっくりと大切に思うことに取り組む飾らない誠実さがなんとも心地よく、カンテレへの思いはフィンランドに行く前よりもぐっと深まりました。

その後少しずつ演奏のお話をいただくことが増え、出産を機に事務の仕事を退職してからは、カンテレの演奏と指導だけを仕事にして二十数年になります。

普段は、北海道を拠点にしながら、全国で、カフェやギャラリー、美術館・博物館といった施設での小さな演奏会でカンテレを弾いています。ソロのほかいろいろなミュージシャンや朗読の方と共演することも多く、馬頭琴奏者の嵯峨治彦さん（彼も北大出身です）と私のデュオRAUMA（ラウマ）で昨年制作したアルバム「深い海」は、思いがけなくフィンランドのカンテレ協会の「カンテレ・アルバム・オブ・ザ・イヤー2019」に選ばれました。その選者がタルヤ・ハロネン前大統領だったことにも驚きましたが、自国の伝統楽器の賞に日本のミュージシャンの作品を選ぶフィンランドの懐の深さにも感じ入りました。

さて、今年は、どの業種の方も多かれ少なかれコロナの影響を受けておられることと思いますが、ご多分に漏れず、私の小さな演奏会もずいぶん中止にせざるを得ませんでした。７月はフィンランドのフェスティバルに参加の予定で楽しみにしていましたがフェスティバル自体も中止に。秋に予定していた北欧アーティストとのツアーも春のうちに中止が決まりました。仕方のないこととはいえ残念なことが続きましたが、基本的にのんびり屋なので家にいる時間もそれはそれで楽しく、そして仕事も違う形で進みつつあります。

ライヴが少ない分、時間のあるうちにと、今は新しいアルバムのための録音作業を進めています。

夏至の日にはオンライン音楽配信イベントに参加し、観ている側にも一体感が生まれる経験をして、私のオンラインのイメージが刷新されました。中止となったフィンランドのフェスティバルも今年はオンライン開催となって、こちらも収録した動画で参加することになりました。音楽仲間と久しぶりに集まっての撮影は気持ちが弾みましたし、家にいながらフィンランドの伝統音楽にたっぷり触れる１週間のオンライン・フェスは、予想を上回る楽しさでした。

一方で、やはり生の音楽の素晴らしさも再認識しています。北海道の状況が落ち着いてきている中で、通常のレッスンと地元でのごく小さなライヴは、窓をあけ人数を制限するなどした上で、少しずつ再開しつつあります。生の音の響きを心待ちにしてくださる方も多く、直接音楽をお届けできることの有り難さや嬉しさを、あらためて実感しています。

ところで、フィンランドのコロナ対策で陣頭に立ったサンナ・マリン首相は若い女性ということで注目を集めましたが、ジェンダーの平等や若い人の活躍が当たり前になっているフィンランドでは、むしろ、若さや女性であることが国外で話題になることが驚きをもって受け止められたそうです。フィンランドは幸福度の高い国として、また教育に力を入れている国としても知られています。教育費が無料で、誰にでも最適な教育の機会が保証されていることは、社会の公平さと生活や職業上の質の高さに直結していますし、加えて、ゆとりのあるライフスタイルと、自分も人も尊重する態度が、幸福度の高さに結びついているように見受けられます。

思いがけず家で過ごす時間が増えた今年は、自分の生活のペースと、何が多くの人の幸福につながるのかをあらためて考えることが多くなりました。

「新しい環境」

木　村　咲　綺（平本ゼミ）（経済学部３年）

新型コロナウイルスによる影響について、授業と就職活動の面からお話したいと思います。

現在実家の神奈川でオンライン授業を受講しております。登校時間がないこと、何度も再生できることは嬉しい点ですが、緊張感がないこ

と、話しにくいこと、が難しい点です。普段は授業スタートの1時間以上前に起きて支度を始めますが、パソコンを起動すればすぐに受講出来るので遅刻の概念が無くなったように感じます。また先生方が入室許可をするのが大変そうだなと思っていますが、小テストやレポート課題はホームページ上で一斉に学生に配布されるので、回収や、採点が効率化されており作業が減っているのでは、と思われますが、学生からは見えない大変さもきっとあるのかなと思います。

また、少数でのディスカッションやゼミでの議論は顔を見ながら話を聞けますが、同時に話始めてしまうとお互いためらってしまう場面がよく起きます。自分がその当事者になると、対面で話したいと感じてしまいます。ですが、先生方が日々学生のために試行錯誤して下さるのが画面越しに伝わってきます。授業も工夫してくださり、対面との遜色もほぼ感じません。この場を借りて感謝を伝えたいと思います。

就職活動についてですが、学部3年なので夏のインターンに向けて現在動いております。説明会や選考、就職活動全般のことはオンライン実施のため、地域不利がでない点はありがたいと感じます。実際に全国の学生とディスカッションや、話す場が持てることは良い機会だと感じています。ただ、授業同様で話すタイミングが被ってしまうと申し訳ない気持ちでいっぱいになります。インターネットの接続トラブルや人数制限などオンラインならではの問題点もありますが、問題点以上に前述の利点の価値が高く、実際に就職活動を通してできた友人との親交も深まり嬉しい限りです。

オンラインだから出来ないこともありますが、オンラインだからこそ出来ることも多く、充実した日々を送っております。

怒涛の大学院進学と充実した大学院生活

山　口　久瑠実　（修士２年）

私は、2015年３月に経済学部を卒業後、約３年半メーカーで人事業務に従事していました。人事考課・昇格、人材ローテーション、新入社員研修、労務管理といった業務を通し人事の立場からマネジメントの難しさを痛感し悩む日々が続き、就活時に抱いていた「日本のモノづくりに関わりたい！」という思いも相まって、他部署への異動、それが叶わないのなら転職まで考えていました。そのような時、別件で、恩師である谷口勇仁先生（現中京大学）とお話する機会があり、せっかくなので先の悩みについて相談をしてみました。そこで頂いたのは、「大学院に進学してみたら？」という衝撃の一言でした。あまりにも突然で、これまで考えたこともない道でした。とりあえず、学部時代を振り返ってみようと、ゼミの輪読で使用した書籍やレジュメ、卒業論文に目を通してみました。思い出したのは、大変だったという記憶と、その中で生き生きと考えている自分の姿であり、徐々に研究者という道に心が惹かれていきました。しかし、今のままであれば、ある程度安定した生活が送れるにも関わらず、アルバイトで生計をたて、授業料を支払いながら不確実な道を選ぶという決断は簡単にはできません。そんなとき私の背中を押してくれたのは、ゼミの同期や会社の同期、そして親でした。自分がどんな状況に陥ったとしても、この人たちは味方でいてくれるという大きな支えは、「人生一度しかないのだから、やりたいことをやってみよう！」と、前に進む勇気をくれました。決意してからは怒涛の日々で、大学院入試に向け研究計画の立案、筆記試験の勉強、面接練習などを行いました。合格後も研究者としての素地を培うため、自身の研究に関連する多くの論文に目を通しました。

やっとの思いで入学すると、最初は留学生の多さに驚きました。なんと経営系は約20名の学生の中で日本人が自分しかいないという状況です！中国、モンゴル、コスタリカ、ロシア、ギニア、バルバドス等々、これまでドメスティックな環境で生きてきた私にとって、初めてといっていいほどのグローバルな環境でした。当初は馴染めるのだろうかとすごく不安でしたが、それは杞憂に終わりました。

大学院の講義は学部とは異なる少人数の講義で、講義中に互いに議論し合うことが多くあります。加えて、グループワークによる報告も多くあり、留学生と授業外でも交流する必要があります。その結果、１～２週間ほどでみんなと仲良くなることができ、ゴールデンウィークが明けた頃には、WeChat（中国で使われるメッセージングアプリ）を交換し、一緒に火鍋をつつく仲になりました。火鍋に入れるカニカマがとても美味しいことに驚きました！その後も、よさこいソーラン祭り、大通公園でのビアガーデン、豊平峡ダムでの紅葉狩り、スノーボードなど札幌のイベントを満喫しました。札幌生まれ札幌育ちの私ですが、こんなに札幌のイベントを楽しんだのは初めてではないでしょうか。さらに、９月にはウラジオストクからの留学生の自宅に伺いプチホームステイも行いました。新千歳空港から片道２時間、ヨーロッパとアジアの文化が融合された素敵な場所でした。キリル文字に戸惑いながらも、挨拶や自己紹介など少しずつ覚えていきました。お世話になったお母さんともWhatsApp（欧米でよく使われるメッセージングアプリ）友だちになり、互いにクリスマスのメッセージを送り合う関係になっています。

また、昨年11月には、約40名の留学生が参加する留学生懇親会を企画・運営したり、12月にはモンゴルJDS事業の一環として、モンゴルからの留学生４名の研修旅行のアテンドを行いました。研修旅行では、京浜工業地帯の工場見学として、皆で、日産の追浜工場、カップヌードル工場も見学し、夜は美味しいワインとお肉を平本健太先生にごちそうになりました。このようなイベントを通じて、様々な留学生との繋がりができました。大学院には、院生幹事という院生が利用する研究室の管理などを行う自治組織がありますが、私は今そこで幹事長を担当しており、その業務を行う際にも、多くの留学生に協力してもらっています。

大学院では学部と異なり、これまで講義しか受けたことのなかった先生とも色々ご一緒に仕事をさせていただきました。例えば、学部講義の期末試験の監督業務では、業務内容はしっかり決まっているのですが、その中でも各先生の個性が出て、学部では味わえない親しみを感じました。I先生のおおらかな試験監督は特に印象に残っています（笑）。

大学院進学を検討し始めてから数年、本当に多くの人々に支えられながら、私は今ここにいます。そして、このように文章を書くことができていることに、心から感謝しています。何かと不安が続く状況の中で、直接会うことは叶いませんが、日ごろから自身を支えてくれる人たちに思いを馳せながら、研究など今自分にできることに取り組んでいきたいと思います！

「札幌円山公園のオシドリ」

臼　田　　正（昭和47年卒）

みなさん、こんにちは。ここ数十年来、私はバードウォッチングを楽しんでおります。今回は、札幌円山公園のオシドリを紹介したいと思います。円山では例年何つがいかのオシドリが繁殖しています。なお、札幌市内では、円山の他、北大構内なども繁殖地としてよく知られているところです。野鳥としてのオシドリは、本来警戒心の強い種で人を寄せ付けない鳥なのですが、円山ではあまり人を恐れず、間近でじっくりと観察することが出来ます。これは、人々が誰一人としてオシドリを驚かすような行為をしないで優しく見守ることに徹しているからであると思われます。このような、全国的にも珍しい貴重な観察環境を、今後とも大切にして行きたいと願うものです。

オシドリは、環境省のレッドデータブックによると情報不足（Data Deficient）に指定されているごとく、まだまだ解明されていない面も多いようですが、実際には、冬から春にかけてつがい形成し、四月から六月にかけて繁殖し、雌が抱卵中につがいを解消し、雄は群れまたは単独行動になります。そして巣立ち後、雌は雛と生活します。この時、派手で目立つ雄が一緒にいると、天敵に雛を発見され易いと思われます。なお、雛の巣立ちの頃、雄は換羽し、雌によく似た地味な羽衣になりひっそりと暮らします。一方、雌は雛が成長してから換羽します。秋になり次のつがい形成期が近付くと、雄は再び色鮮やかな繁殖羽に換羽します。翌春、繁殖に適した樹洞探しを二羽で行い、産卵時、雄は営巣木周辺で待機します。抱卵は雌のみが30日程度行い、抱卵中雌は朝夕二度採餌のため巣を離れますが、抱卵開始後しばらくの間、雄は採餌する雌に付き添い行動を行います。

円山公園では、例年六月初旬頃から八月半ば頃まで、何組ものオシドリの繁殖・巣立ちが確認され、園内の二つの池では、その母子連れが心温まる愛くるしい姿で、公園を訪れる人々の目を楽しませてくれます。写真❶は六月中旬、巣立ち後約二週間の姿です。この頃の母子連れの様子が、公園を訪れる人々にとって最も人気が有るようです。まだ、綿羽に覆われた雛のあどけなさが目につきます。写真❷は巣立ち後約七週間の雌です。すでに成鳥とほぼ同じ体格となり、何とか飛翔可能となりました。写真❸は、巣立ち後約十一週間の雄です。すでに成鳥への移行期と思われます。写真❹は、換羽が完了して美しい生殖羽となった雄です（ただし、当歳か二歳以上かは不明）。内側三列風切が見事な銀杏羽となっています。

この様に、円山公園では毎年オシドリの繁殖と成長過程がつぶさに観察出来ます。みなさんもお出でになってはいかがでしょうか。ある年の十月、美しい生殖羽になったオシドリ雄を見て、その印象を詠みました。

銀杏羽は　くれなゐに燃え
オシドリの　恋は芽生えぬ
秋明か明かし

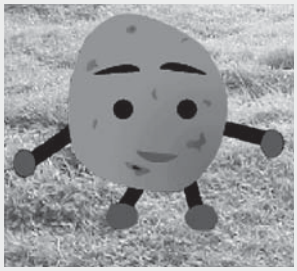
新型コロナウイルス感染防止のため
すべての授業がオンラインになりました

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、2020年度前期の当学部・学院の授業は５月11日からすべてオンライン授業で開始されました。教員も学生も慣れないオンライン授業に現在も奮闘する毎日です。先生たちはどのような感じで授業を行っているのか、いくつかの事例？をここでご紹介いたします。

統計学（全学教育）S先生の場合：60代の先生にとってオンライン授業？ どうやるのでしょう??から始まりました。Zoom？ Webex？ 何を使えばよいのか、何を準備すればよいのか、オンデマンド？ 双方向？ webカメラは品薄で手に入らず、教務のものを借り、ノートPCもWindows７のままでしたので、急遽アップグレードし、Zoom、Webexの年間契約をとりました。一番肝心なのはリアルタイムで授業を行うか、オンデマンド型にし、授業を録画し学生が何度も繰り返し見れるようにするのか。大変迷うところです。先生は「授業は教員と学生が同じ時間を共有するものだと思います」との観点から双方向型を選択しました。ソフトはWebexを選び、ELMSに授業のURLを設定し、授業開始です。場所は黒板をどうしても使いたい先生は、少し広めの空間を探し、経済学部の教授会などで使っている会議室に大型の黒板があることもあり、そこを使って発信することになりました。予想人数は50名ほどでしたが倍の人数が集まります。最初の授業は、見えません、聞こえません、フリーズしています、と学生たちのチャットが多く、どうしてよいのやら。翌週も同様に行いましたが、なかなかネット環境が改善しません。学生からもっと安定したネット環境を使ってくださいといわれ、Wi-Fiが原因だったと悟り、翌週から有線にしますと、すっかり安定しました。毎回100名近くの学生が「待合室」から許可を得て入室しています。質問もチャット形式が現代の学生とマッチしているのか、対面の時よりずっと多くきます。いろいろ困難なことも多いのですが、質問がたくさん来るのは喜ばしいことです。このままオンライン授業が８月下旬まで続きます。

経営学O先生の場合：学部ゼミ（Zoom）週１回、大学院ゼミ（Zoom）月２回、全学科目（オンデマンド）週１回、企業論Ⅱ（オンデマンド）週２回、大学院合同開講科目（オンデマンド）週１回とかなりハードです。O先生はほかの経営学の先生とも相談し、全学の授業や学部の授業はオンデマンドにすることにしました。オンデマンドは資料に音声をつけたり、講義を録画しELMSにあげる方法です。この方法の良いところは納得するまで何度でも録画（録音）しなおすことができ、時間を区切って録画を足していくことも可能です。悪い点は、ついついより良いものをと何度も録画しなおしてしまったりするなど、思いのほか時間がかかることもある点です。手順はまずはパワポ資料を作成し（ソフトの関係もあり新しく作り直さなければなりません）、その後ナレーションを録音、気づけば深夜一歩手前ということもたびたび。その後ELMSにアップ、と思ったらされていない！？などアクシデントも。その間録音しているときに普段全く反応しないiPhoneが反応し、しゃべりだしたり…。こうして、先生の夜はふけていくのでした…。※写真撮影を申し込みましたが、撮影のために机の上を片付けると「オンライン授業システム（先生の中の）」が破綻するので、と丁寧にお断りになりました。

経済学部・経済学院は前期授業はこのままオンライン授業が続けられます。静かな教員研究室の廊下を歩くと、今日もそこかしこから、録画のために無観客で講義をしている先生の声が、聞こえてきます。早く観客入りで授業が再開されればよいですが、なかなか北海道は終息まで至らず、この状況が長く続くのかもしれません。突然降ってきたオンライン授業ですが、学生も先生も長所と短所を使い分けながら、この「with コロナ」の時代を乗り越えていきます。



ご本人お気に入りのキャラクター「塚田君」

（文責：塚田　久美子）

同窓会サポート企業

SALAT 株式会社 サラト

■本　　社
兵庫県姫路市北条宮の町172
〒670-0948
Tel.079-284-1380

■東京支社
東京都台東区台東4-18-7 シモジンビル5F
〒110-0016
Tel.03-3832-6381

20000142(07)

http://www.salat.co.jp

就職状況

― 就職戦線、今年までは異常なし ―

- 昔とは比べものにならないほどの情報が容易に入手できる環境で、若者の就職先選択の基準は益々「多様化」しています。“指定席”の大企業や官庁に根強い人気がある一方、今年もカタカナ、アルファベットで記載する企業数が増えました。
- 北大経済はマンモス私大に比べOB・OGの数ではかないません。それだけに、ビジネスや会合の場で会われたときは先輩として温かい声掛けと励ましの言葉をお願いします。

【５名】 札幌市
【４名】 富士通、ニトリ、北海道銀、第一生命、監査法人トーマツ
【３名】 日本製鉄、大和証券、JIGSAW
【２名】 JFEスチール、パナソニック、みずほF、商工中金、住友生命、野村総研、楽天、NTTデータ、ファーストコネクト、商船三井、日本航空、日通、EY新日本
【１名】 極洋、清水建設、熊谷組、三機工業、DOWA、三井金、日東紡、アサヒビール、日清オイリオ、カゴメ、JT、ライオン、ブリヂストン、住友ゴム、日鉄エンジ、JFEエンジ、日立、NEC、村田製作所、富士電機、三菱重工、IHI、住友電工、デンソー、NOK、澁谷工業、ヤンマー、キヤノンITソリュ、伊藤忠、双日、ナラサキ産業、清水清三郎商、ゼンショー、イオンモール、阪和興業、小松ウオール、日軽パネルS、ワコール、セラク、日銀、三菱UFJ、三菱UFJ信託、三井住友信託、日本政策投資銀、日本政策金融、福岡銀、大東銀、浜松信金、みずほ証券、日本生命、東京海上、あづさ、KPMG、PWC、住友不動産、三菱倉庫、船井総研、川崎汽船、日経新聞、オリエンタルランド、ウエディングパーク、SCSK北海道、ニッセイ情報、NTTコミュ、日本IBM、アクセンチェア、NTT東、ソフトバンク、富士ソフト、北海道日立S、トランスコスモス、第一生命情報S、日立システム、NECソリュ、マーキュリー、サイバーエージェント、ソフトコム、TENGU、三菱日立パワーS、コムチュア、アーステクノロジ、インテージヘルス、イノアック、ネオキャリア、ベネッセ、クラブツーリズム、近ツリ北海道、野口観光、マツボー、北の達人C、ヴァリューズ、レイヤーズコンサル、ヤマハBS、LIFULL、ダットJ、フューチャーアーキ、インターネットイニシア、ソルトワークス、WEWORK、リンクアカデミ、エイジェック、エイチエムG、ベルシステム24、ワタナベエンター、WTOKYO、イークラフトマン、星野リゾート、総合商研、ユーハート、ギガフォトン、アグス、ホクレン、北電、電源開発、道建設業信用、総務省関東通信局、東日本高速道、札幌出入国管理局、大阪国税局、前橋地検、防衛省、海上自衛隊、札幌医大HP、日本気象協会、北海道、道厚生局、千葉県、登別市、倶知安町、柏陵高校

恩師の異動

令和２年３月の異動です。大学で行う予定の送別会も新型コロナで中止となりました。同窓会としてもずいぶんお世話になった方々です。新しい舞台でのご活躍とご健勝を心からお祈りいたします。

○町野　和夫 教授（北海道武蔵女子短期大学 学長）
○蟹江　　章 教授（青山学院大学 教授）
○谷口　勇仁 教授（中京大学 教授）
○岡部　洋實 特任教授（退職）
○小山　光一 特任教授（退職）

協賛金（学生支援金）ありがとうございました

「協賛金」は在学中の学生に対する勉学や研究活動の支援・環境の整備改善・就職セミナー開催などにつかわれます。一般会費とは厳正に別管理とし、学部長と使途を協議して有効に活用しております。

今後とも母校後輩へのサポートをよろしくお願い致します。

ご賛同頂いた皆様は下記のとおり（敬称略、カッコ内は卒年　アルファベットは匿名希望者）

７万円　浅井邦弘（s42）
３万円　鈴木貴之（h1）
２万円　井筒省三（s26）田中利男（s50）
１万円　樋渡雄三（s26）我孫子健一、泉誠二（s29）高田迪允（s31）
佐藤茂行（s32）伊藤幸彦（s34）斉藤修治（s35）
坂井（井戸川）静生、村瀬光正、小柳征夫（s37）
川野理（s40）山田建一（s41）牟禮研吾（s42）佐藤博昭（s43）
渡邊豊、石渡英夫（s44）八重樫幸一、高野一夫（s45）
西岡豊、花井信（s46）
奥村五百子、塩谷哲実、浜向昭一、湯川康史、大滝洋一（s47）
和久井俊秀（s48）岩本栄一（s49）宮本裕司（s50）藪谷隆（s55）
津村晶（s58）藤井一裕（s61）T.M（h3）木下亮（h9）安住昌紀（h11）
加藤雅也（h21）田中竜二（h31）

令和２年７月期　収支報告

自　令和元年８月１日　　至　令和２年７月31日

	項目	金額(円)	備考
収入	前期繰越金	7,950,003	
	会費収入	2,305,000	
	協賛金収入	500,000	
	広告収入	390,500	会報35号
	総会収入	251,921	文系４学部幹事
	その他	3,543	金利等
	計	11,400,967	
支出	消耗品費	23,446	インク、ラベル等
	会議費	0	
	総会関連費	283,230	
	助成金（協賛金支払）	46,111	優秀論文賞ほか
	通信費	379,708	会報、記念品発送等
	会報作成費	540,321	会報35号
	旅費・交通費	0	
	事務費	600,000	事務局実費
	印刷費	16,726	封筒類ほか
	雑費・手数料	46,128	振込手数料負担分
	計	1,935,670	
	次期繰越金	9,465,297	
	合計	11,400,967	

※本決算は７月31日付で高野一夫監事により正確かつ適正に処理されている旨の「監査報告書」を受領しております。

編集後記

●新型コロナウイルスの影響で大学の主要行事は全て見送られ、同窓会の催しも中止となる中、この『会報』も見送る予定でしたが、急遽「こういう時こそ届けよう」という声が上がり、ページ数は約半減、広告も殆ど集めない形ながら何とか発行に漕ぎつけました。快くご協力いただいた方々に深く感謝申し上げます。

●日本人は血縁者間に限らず地域や職場においても何かと「集まる」ことでお互いを理解し、物事を進めたり共感してきた部分が多かったように思います。教育においても同様でtele-educationが学習者の知識習得や成長を新たな手法で促していくことを願うばかりです。

●胸膨らませて入学した今年の新入生。本来なら新しい環境で友人らと大学生活を謳歌しているはずでした。偶々電話で話ができた北陸地方出身の新入生は北18条のワンルームでけなげに暮らしていました。また、同窓会費の問い合わせをいただいた関東地方の新入生のお母さんが「息子には将来いい思い出になるんじゃないでしょうか」と明るく仰ったのも印象的でした。

●最後におカネの話で恐縮です。ご高承のように同窓会運営と学生支援は皆様の会費が頼りです。一切の無駄を省き透明で有効を旨に使わせていただいております。引き続きご支援をお願い申し上げます。　また、住所が変わりそのまま連絡先を届けていない、いわゆる「行方不明者」が多いのが経済学部同窓会の特徴です。特に昭和63年～平成16年の卒業者に目立ちます。転勤があったり働き盛りということでつい忘れてしまうのでしょう。何かの集まりの際には同窓会へ届け出るようお声掛けいただければ幸いです。

（岩）

2020年同窓会総会のお知らせ

今年はホームカミングデーが中止となりましたので、次の日程で総会を行います。

なお出席希望の方は９月10日までに事務局まで氏名、卒業年、住所またはメールアドレスをメールまたは書面にてご通知願います。人数を把握したうえでソーシャルディスタンスが確保される開催場所（札幌駅周辺）を追って通知させていただきます。

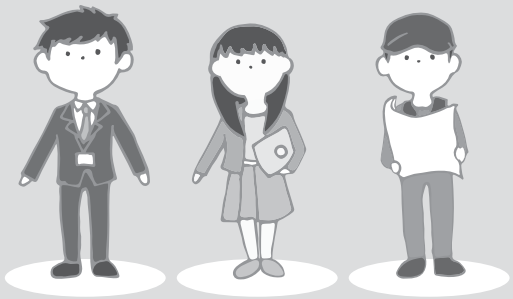
日時： ９月23日（水）　午後４時より約１時間

《今年の表紙》

「いつも通り家内と散歩していて、何気なくクラークさんを見上げたらなんとマスクしてたよ、そういえば50年前にはヘルメットをかぶられたこともあったよな」――５月４日にOBのKさんから写メをいただきました。

1926年に原型が制作され、その後太平洋戦争の金属回収令で鋳つぶされ、昭和23年（1973年）再びほぼ原型のまま鋳造されたのですが、今日に至るまで北大の数々の出来事を中央ローン北西角の台座から睥睨されておられます。

伝える。



私たち須田製版は
企画・デザイン・印刷
という手段だけではなく
WEB・映像・イベント・
マーケティングなど、
多様な手段で
お客さまの“伝える”を
お手伝いしています。

TOTAL PRINTING
株式会社 須田製版
www.suda.co.jp
札幌本社
〒063-8603
札幌市西区二十四軒2条6丁目1-8
TEL.011-621-1000
FAX.011-621-1500
旭川支社・釧路支店・苫小牧支店・東京支店・
滝川営業所・帯広営業所・北見営業所

北海道内のすべてがそろう
“電子書籍”ポータルサイト「ホッカイドウ イーブックス」
Hokkaido ebooks
www.hokkaido-ebooks.jp